

～株式投資で勝つ方法～ - エライ人の金言編 -
その2 ピーター・リンチに学ぶ(全5回)

2005/06/17 太田寿一

第4回 初めての人でもわかる株式の分類方法

ピーター・リンチは、全ての銘柄は6つに分類できて、それぞれにあった分析と売買の手法を紹介しています。株を分類することで、その株に何が期待できるかをよりよく認識することが出来るからです。株を分析する際は、「この株は6つのうちどんな株だろうか?」ということを考えて、分類してから(あるいは専門家に聞く)調べたほうが良いでしょう。

低成長株 Low Growth Stocks

最初は成長株だったが、限界に達してしまった株。事業拡張の余地はないが、配当が高い会社が多い。

このような株は配当を得るのが目的になる。配当が常に支払われているか、増配が定期的に行われているかを調べる。また、可能ならば配当性向(利益の何%が配当として支払われているか)を調べる。低い比率ならば景気の悪化に耐えられる余裕を持っていることになる。

低株価にもかかわらず、2年連続でマーケットシェアを落としている、投資家を惹きつけるだけの配当利回りが冴えない場合は売る。

優良株(中成長株) Blue Chips

いわゆる大企業で、身軽ではないが低成長株よりも成長が期待できる株。だが株価が大きく伸びることはない。

株価が割安なときにのみ買いを行う。また、多角化ならぬ“多悪化”をしていないかどうかにも注意を払う。そして、これまでどおりの成長率を保っているかも調べる。

株価が割高になったときや、役員が自社株を購入していない場合、成長が鈍化した場合は売る。

市況関連株 Stocks affiliated with the Market

売上と利益が上下する株で、業績が拡大と縮小を繰り返す。景気の循環と密接な関係を持つ。

在庫及び需給関係に注意する。市場への新規参入会社は不利な状況となりやすい。身近な市況商品について知っているなら、投資の際非常に有利になる。

製品の需要が減退しているとき、コストを削減しているにもかかわらず外国製品との価格競争に勝てないときは売る。

急成長株 High Growth Stocks

年に20～25%の成長を示し、株価が10倍から100倍にまでなる株。創立間もない会社や小規模な会社が多い。

会社に利益をもたらしている商品が、その会社のメイン商品であるかを調べる。また最近の収益の成長率を調べる。20～25%の範囲が好ましい。また、まだ拡大の余地があるかどうかも重要。さ

らにプロが知らないような株ならますます有望である。

直近の売上が落ちたり、役員や優秀な社員がライバル企業に移った場合、株価が楽観的な予測でも割高になった場合は売る。

業績回復株 Recovered Stocks

倒産寸前まで行きながら、V字回復を果たした会社。きわめて急速に回復する性質をもつ。

現金額と負債額に注意する。負債がなければ倒産することはない。また、どのような方法で業績を回復させたかをみる。コストの削減や不採算部門の整理など。

在庫の増加率が売上の伸び率の2倍以上になった場合や借入金明らかに増えている場合は売る。

資産株 Income Stocks

土地や不動産などの資産を持っている会社。他にも特許権や採掘権、伐採権などの無形資産も含まれる。

資産の価値はどれくらいで、含み資産（時価での評価がプラスになっている資産）が存在するかどうか。また、資産から差し引かれる負債はどの程度あるのかや、会社が新しい負債を抱え込んでいないかどうかにも注意する。

高値での売却が期待された部門が、実際には安い値段でしか売れなかった場合や機関投資家の持株比率が増えた場合は売る。

全ての会社に言えること

- ・ 株価が会社の状況から見て高いか低い。また、同業他社と比較してどうか。
- ・ 機関投資家の持株比率はどうか。低ければ低いほど良い。
- ・ インサイダー（内部者）が買っているか、あるいは自社株買いを行っているか。
- ・ 今までの最高の利益はどれくらいか。利益の上昇は偶発的なものか、安定的なものか。
- ・ その会社の貸借対照表は、負債資本比率から見て健全かどうか。
- ・ 流動資産比率はどうか。1株あたり流動資産の値は、株価の底値である。

ピーター・リンチの金言コーナー

- ・ 本社ビルの仰々しさと、経営陣が株主に利益分配を嫌がる度合いは、明らかに正比例している。
- ・ 空売りをするか、金持ちの配偶者を探している詩人でない限り、悲観論は何の役にも立たない。

参考文献 『ピーター・リンチの株式投資の法則』（1994）

ピーター・リンチ（著）酒巻英雄（監訳）ダイヤモンド社

『ピーター・リンチの株で勝つ アマの知恵でプロを出し抜け』（2001）

P・リンチ&J・ロスチャイルド（著）三原淳雄・土屋安衛（訳）ダイヤモンド社

『マネーマスターズ列伝～大投資家たちはこうして生まれた』（2000）

ジョン・トレイン（著）坐古義之・臼杵元春（訳）日本経済新聞社